

## 2 ローマ字表記

### 2.1 日本語

#### 2.1.1 基本ルール

ローマ字表記方法は以下の表を参考にすること。

a	(ア)	i	(イ)	u	(ウ)	e	(エ)	o	(オ)
ka	(カ)	ki	(キ)	ku	(ク)	ke	(ケ)	ko	(コ)
sa	(サ)	shi	(シ)	su	(ス)	se	(セ)	so	(ソ)
ta	(タ)	chi	(チ)	tsu	(ツ)	te	(テ)	to	(ト)
tso	(ツァ)	ti	(ティ)	tu	(トゥ)	tse	(ツェ)	tso	(ツォ)
na	(ナ)	ni	(ニ)	nu	(ヌ)	ne	(ネ)	no	(ノ)
ha	(ハ)	hi	(ヒ)	fu	(フ)	he	(ヘ)	ho	(ホ)
fa	(ファ)	fi	(フィ)			fe	(フェ)	fo	(フォ)
ma	(マ)	mi	(ミ)	mu	(ム)	me	(メ)	mo	(モ)
ya	(ヤ)			yu	(ユ)			yo	(ヨ)
ra	(ラ)	ri	(リ)	ru	(ル)	re	(レ)	ro	(ロ)
wa	(ワ)								

ga	(ガ)	gi	(ギ)	gu	(グ)	ge	(ゲ)	go	(ゴ)
za	(ザ)	ji	(ジ)	zu	(ズ)	ze	(ゼ)	zo	(ゾ)
da	(ダ)	ji di	(ヂ) (ディ)	du zu dyu	(ヅ) (ドゥ) (デュ)	de	(デ)	do	(ド)
ba	(バ)	bi	(ビ)	bu	(ブ)	be	(ベ)	bo	(ボ)
pa	(パ)	pi	(ピ)	pu	(プ)	pe	(ペ)	po	(ポ)
kya	(キヤ)			kyu	(キュ)			kyo	(キョ)
sha	(シャ)			shu	(シュ)	she	(シェ)	sho	(ショ)
cha	(チャ)			chu	(チュ)	che	(チェ)	cho	(チョ)
nya	(ニヤ)			nyu	(ニユ)			nyo	(ニョ)
hya	(ヒヤ)			hyu fyu	(ヒユ) (フユ)			hyo	(ヒョ)
mya	(ミヤ)			myu	(ミユ)			myo	(ミョ)
rya	(リヤ)			ryu	(リュ)			ryo	(リョ)
gya	(ギヤ)			gyu	(ギユ)			gyo	(ギョ)
ja	(ジャ)			ju	(ジュ)	je	(ジェ)	jo	(ジョ)
bya	(ビヤ)			byu	(ビユ)			byo	(ビョ)
pya	(ピヤ)			pyu	(ピユ)			pyo	(ピョ)

上記の表は『研究社 新和英大辞典』第五版を元に作成されている。

「b」、「m」、と「p」の前には「m」ではなく「n」を使うこと。

新聞	○ <i>shinbun</i>	× <i>shimbun</i>
天平	○ <i>Tenpyō</i>	× <i>Tempyō</i>
天武	○ <i>Tenmu</i>	× <i>Temmu</i>

次の音節が「y」または母音で始まる場合、「n」の後にアポストロフィを使用すること。

万葉集	○ <i>Man'yōshū</i>	× <i>Manyōshū</i>
純一郎	○ <i>Jun'ichirō</i>	× <i>Junichirō</i>
善意	○ <i>zen'i</i>	× <i>zeni</i>

促音を表記するには、該当する子音の最初の文字を重ねて表記すること。長子音の「ch」には「tch」を使うことも可能。

毬杖	<i>gicchō</i>	または	<i>gitchō</i>
木簡	<i>mokkan</i>		
骨董品	<i>kottōhin</i>		
漆器	<i>shikki</i>		
実測図	<i>jissokuzu</i>		

形態素（意味をもつ最小言語単位）の境界を超えない範囲で、長音を形成する隣接する母音を示すにはマクロンを使用すること。ほとんどの場合、新しい漢字は新しい形態素の始まりに重なる。

新嘗祭	<i>Nīnamesai</i>
委員会	<i>iinkai</i>
鳳凰	<i>Hōō</i>
鳥居	<i>torii</i>
シーサー	<i>shīsā</i>
呉音	<i>goon</i>
灯籠	<i>tōrō</i>
ビール	<i>bīru</i>

---

**九博  
奈文研**

長子音の「ch」に必ず「cch」を使うこと。

---

### 2.1.2 日本語由来の英単語

「bonsai」「rickshaw」「origami」「Bunraku」など、日本語由来の英単語は、日本語のローマ字表記ではなく、英訳として扱うこと。これらの英単語に関しては、『MWD』に見られるスペルや大文字表記に従い、イタリック体にはしないこと。『MWD』に複数の表記例がある場合は、解説文がついているエントリーの表記例を使用すること。『MWD』に掲載されているにも関わらず、その単語が想定読者になじみがないと判断された場合は、日本語をローマ字化して説明を加えるか、別の訳し方を検討すること。

頻出日本語由来の英単語（スペルと大文字表記は『MWD』による）

aikido, adzuki bean, anime, banzai, bento box, bonsai, Bunraku, Bushido, daikon, daimyo, dashi, dojo, enoki mushroom, emoji, fugu, fusuma, futon, geisha, geta, genro, ginkgo, Go, haiku, hara-kiri, hibachi, hiragana, ikebana, Imari, inro, judo, jujitsu, Kabuki, kakemono, kaki, kami, kamikaze, kana, kanji, karaoke, karate, katakana, katana, kendo, kimono, koi, kombu, koto, makimono, manga, matcha, matsutake, medaka, miso, mochi, netsuke, ninja, Noh, nori, nunchaku, obi, origami, pachinko,

ramen, Romaji, sake, salaryman, samurai, sashimi, satori, senryu, seppuku, shamisen, shiatsu, shiitake, Shinto, shogun, shoji, sudoku, sukiyaki, sumi-e, sumo, surimi, sushi, tanka, tatami, tempura, teriyaki, tofu, tokonoma, torii, tsunami, typhoon, udon, ukiyo-e, umami, urushi, wakame, wasabi, yakuza, zaibatsu, Zen, zori

---

**九博** 「Kabuki」、「Bunraku」、「Romaji」、「Noh」は大文字化せず、「kabuki」、「bunraku」、「romaji」、「noh」と表記すること。

---

### 2.1.3 複数形

ローマ字化した日本語を複数形にしないこと。また日本語由来の英単語も原則複数形にしないこと。

○ Many geisha and samurai  
read *kusazōshi*.

× Many geishas and samurais  
read *kusazōshis*.

---

## 2.2 中国語

漢語拼音を声調符号なしで用いること。

---

## 2.3 韓国語

韓国政府によって推奨されている「国語のローマ字表記法」（文化観光部2000年式）を使用すること。

---

## 2.4 サンスクリット語

ダイアクリティカル・マーク付きの国際標準サンスクリット表記法 (IAST) を使用すること。ローマ字化されたサンスクリット語は複数形にしないが、「deva」や「guru」など、『MWD』に掲載されているサンスクリット語由来の英単語は複数形にすること。

十羅刹女 ○ the ten demonesses (Skt. *rākṣasī*)

× Ten *Rākṣasīs*

十二天 ○ the twelve devas

× Twelve Deva

---

**京博**

釈迦如来と釈迦族の表記は、「ś」 と 「ṣ」 を 「sh」 に変換し、ダイアクリティカル・マークを使用しないこと。

Shakyamuni, Shakya clan

---

**九博**

ダイアクリティカル・マークを使用しないこと。「ś」 と 「ṣ」 を 「sh」 に変換すること。

---